



寺 101
清 10
宝小 58-2663

彼岸花——曼珠沙華(天界の花ともいふ)
秋のお彼岸前後に、野に咲きお墓の周辺や山道に紅々と炎えるように咲きます。中国では漢方薬にも使われ、虫よけになるとも、有毒植物とも言われますが、彼岸花が咲いている風景は秋の風物詩です。

秋彼岸 [九月二十日～二十六日] 御会式 [十月十二日(水)]

暑さ寒さも彼岸までと言われていきますように、秋の彼岸には秋の風景が一段と色深くなつて来ます。そうした節目にご先祖さまを偲び敬い供養する事は、子孫の行為として意義深いものと思われ

ます。仏教の世界では、太陽が沈む西方には極楽浄土があると云われています。この頃は供養すれば盥が浄土に行くことが出来ると言う事で、彼岸供養をすると言う信仰が生まれたのです。彼岸の入りは九月二十日(火)、彼岸明けは二十六日(月)です。ご先祖さまを偲び敬い供養致しましょう。

日蓮聖人は、弘安五年(一二八二年)十月十三日午前八時頃、信徒の池上宗仲邸にて六十一年の生涯を閉じられました。お会式は、その命日の十月十三日を中心し、十月から十一月の間、日蓮宗各寺院において営まれます。当山では十月十一日(水)の午後二時と午後七時の二回お会式法要を厳修致します。お会式には諷誦塔婆(ふじゆとうば)をあけて先祖の供養をします。又、交通安全・子育て鬼神の祈願も受けします。うどんなも名物で檀信徒の皆様は客殿にてご賞味下さい。屋台も出て賑わいます。

日蓮聖人 御難会 九月十二日

九月十二日は御難会と言つて、日蓮聖人が二度目の幕府への諫言により、鎌倉の竜ノ口にて斬首刑に処せられると言う謀略に遭うが、法華経の行者を守護する善神のわざか、突然光ものが現れて、役人の刀は三つに折れ奇跡的にその刑を免れた。この一二七一年九月十二日に遭われた竜口の法難にちなみ、日蓮宗各寺院で御難会の法要が厳修されます。当山で

「六つの行い」その五・「禪定」といいます。欲望や憎しみの炎が消えた静けさです。気持ち散乱しない静寂さをお経では「密室の灯」にたとえています。この「禪定」の静けさは、「のぼせ」や「欲望」を洗い流す水にたとえ、その静けさを楽しむ事をお釈迦様は「魚の水を楽しむがごとし」と言っています。心を落ち着けるには深呼吸がよいことを私達は体験的に知っています。「禪定」は呼吸法を通して心身を整え集中力を養う修行です。身と心の不安定を回復させながら、心身の覚醒を促すのです。(次号で終了)

お釈迦様は、苦しみからの解放の道を求めて、その原因と解放の方法を発見され、心のとらわれをはなれる実践として、「六つの行い」を示されました。今回はその五として、「禪定波羅蜜」について解説致します。「禪定」は静けさの事です。「おろかさ」は頭に血がのぼっている姿をいいます。「のぼせ」がさがり、身も心も静かであつてその静けさが、いいものだと、心底あこがれたら、「おろかさ」を繰り返す事

ご先祖に 塔婆供養

お塔婆の源は、お塔婆の起源についてはいろいろな説がありますが、その中で最も有力な説として、お釈迦様の十大弟子の一人である舍利仏が亡くなった時、弟子たちがその供養についてお釈迦様にたずねたところ、種々の華香を供え、お塔婆を建てて供養するようになつたのだと云われています。その様式が、インドー中国ー日本に伝えられ、今日の様式と

は、御題目講の方を中心として、日蓮聖人後、ぼた餅を食べ、日蓮聖人を偲んでい

して供養の時使われる様になつたと言われてます。秋彼岸に塔婆供養を！秋彼岸に際し塔婆供養をお勧め致します。お塔婆は故人の追善供養の為、遺族親戚の方々によつて立てられます。お塔婆のお申込は同封の葉書(料金受取人払いで、平成八年三月二十日迄有効)を利用して下さい。電話・FAXでお早めにお申込下さい。尚、お塔婆の申込用紙はお檀家の皆様全員に郵送いたしますが、お塔婆の申込用紙は必要な方のみご利用下さい。

三、元政上人の身延道の記
江戸時代の初め、深草の元政上人は、父の遺骨を首にかけ七十九歳の母のお供をして身延山にお参りしました。翌日、奥の院に登り、お堂のうしろの大樹の下に父の遺骨と自分の髪をうずめました。その時に「日蓮上人

の、九年のあいだ、日ごとに此の峰にのぼりて、房州のかたをのぞみ、父母の御墓をこひしのびたまひし事、あはれにかたじけなし」と紀行文「身延道の記」に書き残しています。まことに、「思親閣」という名は、一生の間父母をお慕ひつ事が大切だと思ひます。

の、九年のあいだ、日ごとに此の峰にのぼりて、房州のかたをのぞみ、父母の御墓をこひしのびたまひし事、あはれにかたじけなし」と紀行文「身延道の記」に書き残しています。まことに、「思親閣」という名は、一生の間父母をお慕ひつ事が大切だと思ひます。

のお気持ちを、最も端的に表し得たすばらしい名で、宗祖門下の私たちは、墓参の原点を日蓮上人のご遺文や行動、あるいは元政上人の詩文や行状の中に見出すことが出来ます。これを要約しますと、墓参は報恩と追善との心が第一だということであり、そして、自分が墓参することによつて、志す仏さまの霊が悟りに近づき、同時に自分も救われるのだという信念を持つ事が大切だと思ひます。

「平成六年度管理料及び年間諸費用納入のお願い」
平成三年から管理料の納入をお願いして、今年で四年目に入りました。管理料は旧墓地を含め、当山の境内及び建物の整備等に使われています。御檀家全員の皆様のご協力をお願い致します。納入方法は、
☆お盆等墓参の時持参する。
☆銀行振込を利用。(多摩中央信用金庫 秋川支店) 普通預金口座番号 717524
尚、金額や納入の有無等、不明の方はお尋ね下さい。
★彼岸墓参用お花・お線香を常備★
(二十日～二十六日)
お廿化一束 1800円
お線香百 1000円
「宝清僧寺」
住職 石井 前隆
秋川市小川一〇一局番(四二五)
☎五八一二六六七
FAX 五八一六三八七